

JUAS ケース研究会 活動成果報告

2014年4月24日

ケース研究会

幹事団

- 1 2013年度ケース研究会活動内容**
- 2 活動方針**
- 3 全体会(講義)紹介**
- 4 分科会活動紹介**
- 5 終わりに**

- 1 2013年度ケース研究会活動内容**
- 2 活動方針
- 3 全体会(講義)紹介
- 4 分科会活動紹介
- 5 終わりに

1. 2013年度ケース研究会活動内容

研究会の活動概要

- ゲスト講師として、研究者や実務家を招き、
「ITを活用した経営革新」
「ITによる新ビジネスモデルの創出」
「ソーシャルネットワーク」等
理論・実践の両面からビジネスモデルへのイノベーション
やソーシャルネットワーク等の活用事例を研究する。
- 講義内容について参加メンバー及びゲスト講師を交え
討議・意見交換を実施する。

- 1 2013年度ケース研究会活動内容
- 2 活動方針
- 3 全体会(講義)紹介
- 4 分科会活動紹介
- 5 終わりに

2. 活動方針

進め方

全体会はいっしょに、分科会は個別の興味による2本立て！！

JUAS及び幹事で当初検討した内容

- ・コンシューマITのエンタープライズへの活用事例
- ・ITによるビジネスモデルの変革
- ・クラウドの活用事例の研究
- ・ITを活用した経営改革・業務改革の事例研究
- ・オープンソースの活用・研究



参加者数が多い、参加される方の業種・地域も様々、志向がまちまち
等々……

- ・なるべく多くの方が継続して参加できるように
- ・初めての方でも参加し易い雰囲気
- ・参加するからには役立つ知見・情報等をお土産に持って帰る
- ・部会以外の場での交流

全体会と分科会に分けて進める

2. 活動方針

全体会 実施した講義について

	日時	講師	テーマ
	5/24(金)	JUAS 山田	キックオフ
第1回	6/14(金)~15(土) 軽井沢合宿	ケース研究会 京セラ 福岡 達也	使って広めて、育てるオープン・ソース・ソフトウェア
第2回	8/19(月)	本田技研工業株式会社 グローバルテレマティックス部 部長 今井 武 様	ビッグデータを活用した、安全で快適なモビリティ社会実現に向けたHondaの取り組み
第3回	10/3(木)	有限会社三陸とれたて市場 代表 八木 健一郎 様	つながる～お客さんと産地:大船渡発”双方向ビジネス”
第4回	12/12(木)	株式会社リバネス 代表取締役CEO 丸 幸弘 様	リアルソーシャルネットワークをつくる リバネスのイノベーション創出
第5回	2/20(木)	医療法人社団 KNI 理事長 北原 茂実 様	日本を救う医療の産業化、国際化

**ITの活用、ITに限らない分野、ミクロ～マクロの
広範囲にわたる様々な事例をテーマとして実施**

2. 活動方針

分科会活動について

研究会という性格上、どうしても事例を聞く時間のほうが長くなってしまう。
メンバー間で議論する機会があった方が良い。
(昨年度のビジネスイノベーション事例研究会の運営を参考)

参加人数が多い(62人)ため、小規模グループにした方が相互の交流が進み、
参加者同士の知見や理解を共有し易い。

参加者の求めているもの・レベルに差異があり、全体でモチベーションを維持
することを危惧

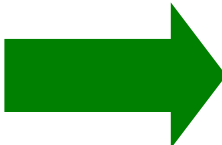


事前アンケートを行い4つの分科会を発足、それぞれのテーマに沿って活動

2. 活動方針

分科会の構成

事前アンケートによるグループ分け

- ①ITによるビジネスモデルの変革の事例
 - ②企業における最新IT技術の活用事例
 - ③IT部門の人材育成について
- 

結果

- ① 70%
- ② 25%
- ③ 5%

ITによるビジネスモデルの変革の研究分科会

チーム1 : 宮本リーダー以下13名

チーム2 : 大道リーダー以下13名

チーム4 : 平瀬リーダー以下13名

IT技術分科会

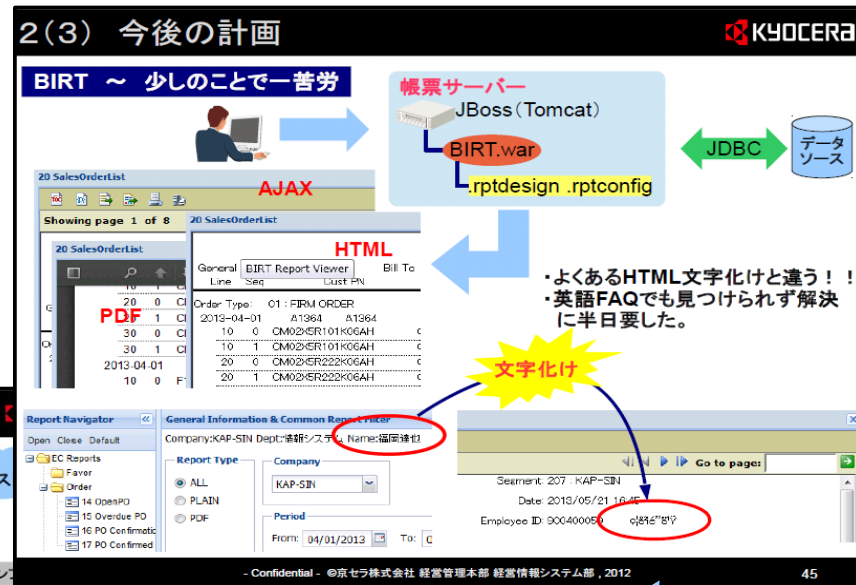
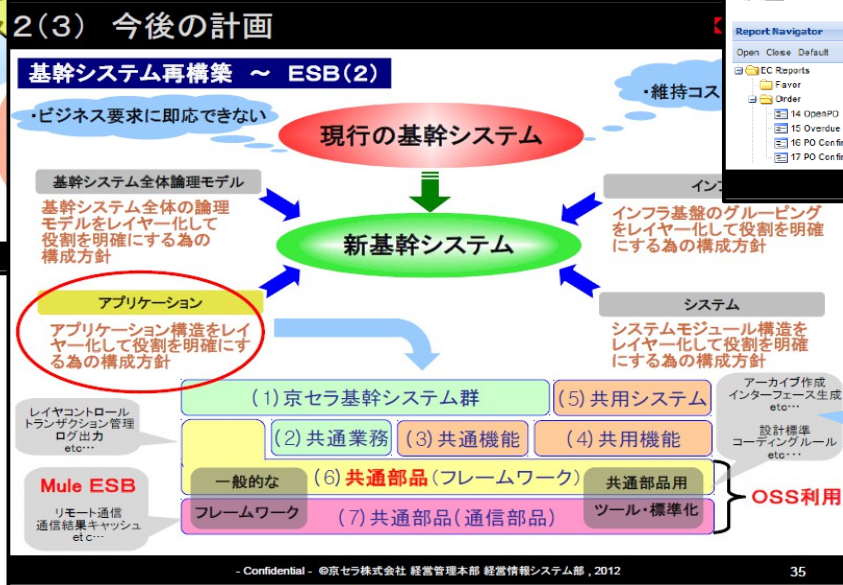
チーム3 : 渡邊リーダー 他11名

- 1 2013年度ケース研究会活動内容
- 2 活動方針
- 3 全体会(講義)紹介**
- 4 分科会活動紹介
- 5 終わりに

3. 全体会(講義)紹介

第1回 京セラ株式会社

使って広めて、育てるオープン・ソース・ソフトウェア



講師をお願いする猶予
がなかったなので、とりあえず
部会長から話題提供

3. 全体会(講義)紹介

OSSを識る

利用の歴史・変化、商用製品との比較、リスクへ理解、適用のジャンル

現在の状況

デスクトップ、ミドルウェア、運用ツールの紹介、アプリケーションの事例、開発ツール、スマートデバイス用開発の失敗

今後の計画

基幹システム再構築への適用(ESB、テストツール、レポート基盤、統合認証等)
新しい技術への取り組み(NoSQL、仮想ソフト、クラウド等)

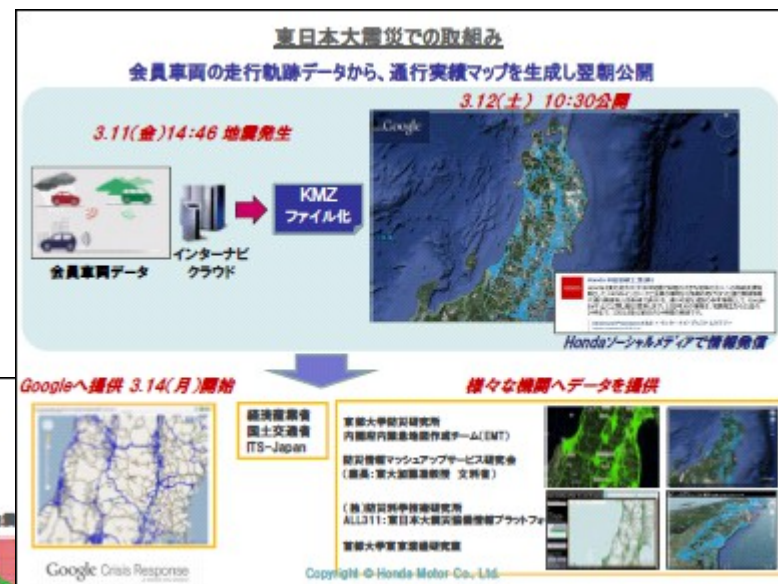
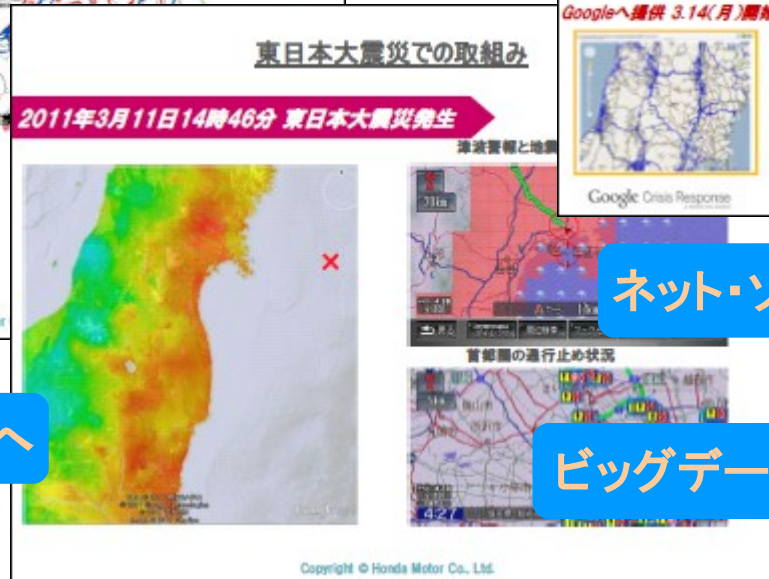
結び

エンジニアへのリスペクト、コミュニティへの貢献、日本発OSSへの期待

第2回 本田技研工業 様

ビッグデータを活用した、安全で快適なモビリティ社会実現に向けたHondaの取り組み

テレマティクスがモビリティ社会を進化させる



ナビからテレマティクスへ

ネット・ソーシャルメディアとの結合

ビッグデータとしての効果・評価

※ ご講義資料引用

3. 全体会(講義)紹介

車と人のつながり

車内情報
ラジオ

車内(近距離)情報
ナビ

車内(遠距離)情報
テレマティクス

社会(クラウド)情報
ソーシャルメディア

テレマティクス「インターナビ」最近の取り組み

インターナビのコンセプトとサービス

スマートフォン用防災・減災インターナビアプリ

インターナビ交通情報システムの効果と評価果

減災に向けた取り組み

フローティングカー(プローブ)交通情報システム

Big Dataを活用した取り組み

Honda Safety Map

防災、減災に向けた取り組み

東日本大震災での取り組み

3. 全体会(講義)紹介

「目から鱗が落ちる」思い

情報(システム)の社会的意義を実感

- ・ **社会に貢献するビッグデータ**
～得られた情報をどのように社会に還元するのか？
- ・ **みんなでつくり、つながる情報**
～世の中とオープンに、いつでもどこでもつながる
～欲しい情報が的確に提供できるサービスの実現
- ・ **情報は誰のもの？**
～官・民の情報を共有し活用
～情報引き出せる価値を、官・民や社会全体で共有

3. 全体会(講義)紹介

第3回 有限会社三陸とれたて市場 様

つながる～お客さんと産地:大船渡発”双方向ビジネス”

震災を機に**新しい流通のかたち**を発見！！

いかに産地を楽しんでもらうか

ライブカメラを利用し漁の生中継で営業

消費者との関係は、震災前からネット通販の過程で実現

震災

漁師が船から下りざるを得ない状況

一緒に行動して考える時間ができた

静岡(由比)の体験

新しいビジネス
モデルにつながる

これまでやってきたことの問題点の自覚、お客様の声を反映させる、
消費者の求めるなものは何か(→魚にまつわる感動体験)を漁業者と共有

3. 全体会(講義)紹介

第4回 株式会社リバネス 様

リアルソーシャルネットワークをつくるリバネスのイノベーション創出

教育は社会を変える、未来を変える

教育事業は収益からみると非常に厳しいビジネス

教育は未来の仲間づくり

教育は自分達の人材育成

21世紀型企业

売上げではなく**社会貢献** / 事業を始める基準は「**新しいか**」「**楽しいか**」「**必要か**」のみ
ネットワーク化した**フラット**な組織 / 常に**プロジェクトベース**の考え方

ローカル視点で
グローバル

新しいビジネス
の創出

テクノロジーとの融合

我々への問いかけ

不安に生きるのか、それともワクワクしながら生きるのか、考えや姿勢の違いで未来は違ってくる

3. 全体会(講義)紹介

第5回 医療法人社団 KNI 様

日本を救う医療の産業化、国際化

診療報酬制度

国民皆保険

利益追求ができない
医療の値段は固定
努力しなくても患者は来る

怠慢経営

医療現場の崩壊
医師不足・職員の疲弊

医療崩壊をSTOPするための改革として

医療を輸出産業化し財源を国外に求め、医療の構造改革によって医療コストを引き下げる

医療は国を支える基幹産業であり、重要な戦略産業

カンボジアへの「病院丸ごと輸出」による医療協力

医療の構造改革と輸出産業化を実現し、医療崩壊を
食い止め、日本の経済や財政状況を上向かせる。

～力を込めて述べられたこと～

傍目には夢物、しかし、夢は本当にそれを望めば、たとえ時間がかかろうとも必ず実現する、ということである。正しく考え、心の底から望んでいることは、どんなに不可能に思えてもいつかは現実のものとなる。だから未来を信じ、常に明るく、前向きの姿勢を崩してはならない。

- 1 2013年度ケース研究会活動内容
- 2 活動方針
- 3 全体会(講義)紹介
- 4 分科会活動紹介
- 5 終わりに

4. 分科会活動紹介 ～ 分科会報告より抜粋



一言で言うと

分科会の特色

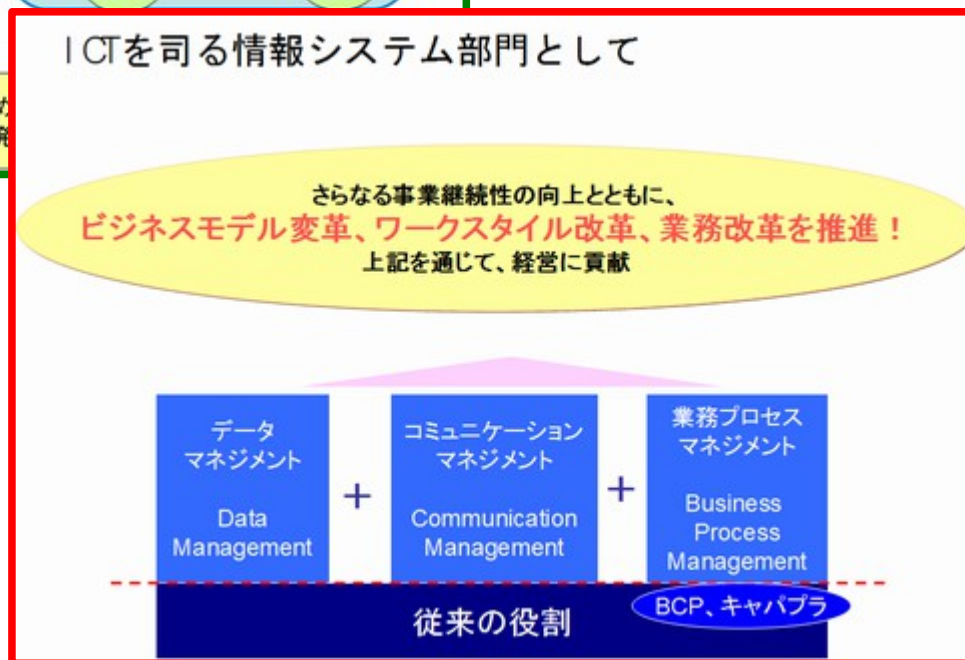
折角だから、各社
お邪魔します！！

ワークスタイルイノベーション

コミュニケーション

ビジネスプロセス教育

ITツール活用



業務改革

BCP

ビッグデータ

4. 分科会活動紹介 ～ 分科会報告より抜粋

合宿(京都遠征)



一言で言うと

分科会の特色

真の狙いは
より懇親の強化！！

IT部門の役割(あるべき姿)

IT部門への期待の変化

武器となる企画と提案

IT部門のあるべき姿

もはやITだけを知っているだけの部門は、不要になりつつあるのかもしれない。
ITは特殊な技術ではなくコモディティ化しつつある。
これからのIT部門はコミュニケーション能力をつけ**相手を知り**、お互いの**ギャップを埋める**ことで、初めてITという**武器(価値)**が効果を発揮する。
要するに業務領域とシステム領域の**橋渡しの役割**が求められているのではないか。



ユーザーの各業務領域を理解し、システム領域における
業務要件を具現化する橋渡しの役割。

企業環境の変化

経営視点

ユーザー視点

IT視点

4. 分科会活動紹介 ～ 分科会報告より抜粋

当初テーマ

ITによるビジネスモデルの変革事例

一言で言うと

分科会の特色

合宿に行けなかった率100%の
かわいそうな人たちの集団！！
(リーダー談)

テーマの再設定

~~今のやり方を変えるにはどうするか~~

~~～IT部門として現場のニーズに即応するためには？～~~

背景となる課題認識

- クラウド化により今までの設計、開発、運用・保守がIT部門のメインの仕事でなくなる。
- IT部門の位置づけ、役割が変わる。今までの延長で IT部門は存在しえない。
- どう変わるかのキーワードはやはり、データ活用では？

- ・LEVEL3に取り組みつつ、LEVEL4以上を目指す
- ・キーワードは「データ・イニシアティブ」

LEVEL5

データを使いこなし、ビジネスに直接貢献できる

LEVEL4

ビジネスプロセスで俯瞰&熟知し、ビジネスの変革や企業価値向上をリードできる

LEVEL3

ビジネス部門とコラボし、ビジネスの変革や企業価値向上に貢献できる(全体最適も司る)

LEVEL2

安定稼働を司り、ビジネス部門の要求に応えられる(言われたとおりにできる)

LEVEL1

ビジネスを継続させる上で、最低限の運用・保守ができる

4. 分科会活動紹介 ～ 分科会報告より抜粋

1. テーマ検討

6/15 テーマ検討資料再掲

各自議論したいテーマをあげ、グルーピングを行った。

- スマホ・タブレット・ウェアラブルの活用方法
- デバイスのBYOD化
- デバイス管理方法（スマホ・タブレット・PC管理）
- 新技術導入の障壁
- 業務効率・売上・利益だけでなくシステムの効果測定
- ITの評価方法
- システム適用の評価とサイクル
- ビッグデータ（どんなデータを分析するか）
- ビッグデータを活用した経営判断
- クラウドとの付き合い方
- クラウドアプライアンス（プライベートクラウド製品技術）
- 新しいIT技術でコミュニケーション・情報共有・セキュリティは、うまくマネジメントできるか
- 次世代コミュニケーション（社外の人材・オフィスとのコミュニケーション・情報共有・SNS）
- 顧客囲い込みに資するIT活用（コミュニケーション）
- コミュニケーション力をupさせる（ツール・運用ルール・事例）
- ITを有効活用したコミュニケーション・情報共有
- ITを導入した際のリスク・セキュリティの扱い
- ユーザ部門へITツールを浸透させる方法
- IT技術の導入成功事例紹介（主にコスト削減）
- システム短納期・低コストの事例（開発費に占める工増早期立ち上げ/OSS/部品再利用/パッケージ）



一言で言うと

分科会の特色

技術志向で進めるつもりが初回の
全体講義で圧倒されてしまった！！

まとめ

総評

新技術を用いての業務改革やビジネスモデル改革の成功例はまだ少ない。コミュニケーションツールの導入など、効果が数値化しにくいものに関しては今後、判断基準の策定方法を考えていく必要がある。

分科会の評価と反省

- 良かった点
 - ・同じシステム部門として身近な題材での事例・課題共有ができたことで、内容の濃い議論ができた。
 - ・先進的な取り組みをお聞きすることができ、自社システムへの適用検討のヒントになった。
- 反省点
 - ・IT活用によるビジネスモデル改革・経営改革などはハードルが高く、あまり検討できなかった。
 - ・もっと未来のIT技術について語り合う場を設けても良かったかもしれない（量子コンピュータ、など）。

テーマ案は色々
あったのだが...

デバイス

コミュニケーション

あまり大それた
ことを考えず集約

社内SNS、iPad、
スマホ、統合ID管理、
ワークフロー、経営情報見える化、デバイス・ネットワーク、
ワークスタイル革新、IT評価、セキュリティ、データセンタ、資産管理、DR

会社の課題と技術動向

- 1 2013年度ケース研究会活動内容
- 2 活動方針
- 3 全体会(講義)紹介
- 4 分科会活動紹介
- 5 終わりに

5. 終わりに

講義からの学び

世の中に役立つ仕事(= 情報システム、IT)

ホンダ 様 :	人を救う
三陸とれたて市場 様 :	人を繋ぐ
リバネス 様 :	人を育てる
KNI 様 :	夢を持つ人

分科会での学び

悩みの共有、会社の枠を超えた関係づくり

合宿の場所・時期

関東地区以外の地方

少しでも要望